

環境省地球温暖化対策課市場メカニズム室

低炭素社会の構築に向けた
カーボン・オフセットの取組

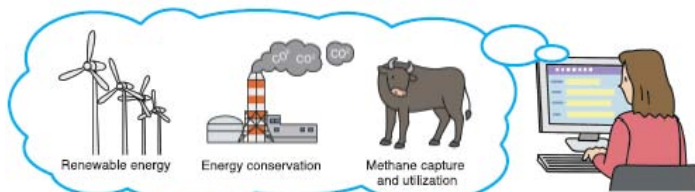
カーボン・オフセットとは？



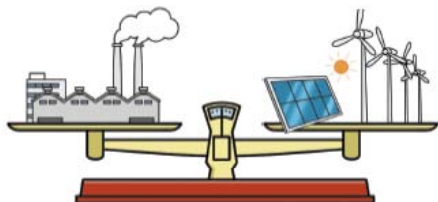
家庭やオフィス、移動（自動車・飛行機）での温室効果ガス排出量を把握する



省エネ活動や環境負荷の少ない交通手段の選択など、温室効果ガスの削減努力を行う



削減が困難な排出量を把握し、他の場所で実現したクレジットの購入または他の場所での排出削減活動を実施



対象となる活動の排出量の一部または全部に相当するクレジットで埋め合わせ（相殺）する

カーボン・オフセットの事例（海外を含む）

商品使用・サービス利用オフセット

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が商品を使用したり、サービスを利用したりする際に排出される温室効果ガス排出量について、当該商品・サービスと併せてクレジットを購入することでオフセットするもの（購入は任意）



事例：エネルギー購入の際の
カーボン・オフセット



事例：航空機利用の際の
カーボン・オフセット

カーボン・オフセットの事例（海外を含む）

会議・イベント開催オフセット

国際会議やコンサート、スポーツ大会等の主催者がある開催に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットするもの
(費用は主催者又は参加者が負担)

洞爺湖サミット及び関連会議もオフセットする予定



コンサート等でのカーボン・オフセット
事例: ap fesコンサート



国際会議等でのカーボン・オフセット
事例: グレンイーグルスG8サミット



スポーツイベント等でのカーボン・オフセット
事例: FIFA W杯ドイツ大会

イメージ写真:
http://blog.so-net.ne.jp/_images/blog/_83a/esperanza/8269538.jpg

カーボン・オフセットの事例（海外を含む）

自己活動オフセット

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が、他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトからのクレジットを購入することで、自らの活動に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットするもの（費用は基本的に市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が自己負担）

自社ビルからの温室効果ガス
排出量をオフセット



日常生活からの温室効果ガスをオフセット
例：一ヶ月の電気料金のCO2換算分



自動車利用の際の
温室効果ガスをオフセット

カーボン・オフセットの意義

- ✕ 温室効果ガス排出の「見える化」
⇒自らの行動と温暖化と関係を知ることが、低炭素社会の構築を行うことの重要な一歩
- ✕ 排出削減オプションの拡大
⇒温暖化対策に貢献する個人・企業等に手段を提供
(まずは削減努力、そしてオフセット)
- ✕ 排出削減を行うプロジェクトに対して支援を拡充
⇒対策の資金を供給する仕組みとしても有望
(国内外のコベネフィットプロジェクトなどの支援)
⇒カーボン・オフセットによる地域活性化

我が国におけるカーボン・オフセットの 関心の高まりと指針の策定

- ▶ G8 洞爺湖サミットや京都議定書第一約束期間の開始が与えるモメンタム
⇒市民・企業等がより積極的に温暖化対策活動への参加を求めるうごき
- ▶ 我が国のカーボン・オフセットのあり方について（指針）の策定
⇒確実な排出削減行為に裏付けられた適正な取組の支援
- ▶ これまでに40社がサービスの開始を発表（2008年5月末現在、環境省調べ）

急速に拡大するカーボン・オフセットの取組

- ✕ 2008年4月末現在、国内におけるカーボン・オフセットの取組は約80件であり、商品・サービス型が大半を占める。2008年4月だけで約20件の商品・サービスが発表され、カーボン・オフセットの取組は急拡大している。

分 類	説 明	件 数
商品・サービス	市民、企業等が商品を使用したり、サービスを利用したりする際に排出されるGHGについて、当該商品・サービスと併せてクレジットを購入することでオフセットするもの	40件
会議・イベント	国際会議やコンサート、スポーツ大会等の主催者がその開催に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットするもの	12件
自己活動	市民や企業等が、クレジットを購入することで、自らの活動に伴って排出される温室効果ガス排出量をオフセットするもの	13件
特定者間	地域の森林保全への出資・寄付行為など、市場を通さずに特定者間のみで実施されるようなカーボン・オフセットの取組。	11件

低炭素社会への取組を通じたビジネスの拡大

- ▶ 英国・米国等では、これまでのコンプライアンス炭素市場に加えて、カーボン・オフセット市場が急激に拡大
- ▶ ビジネス等の様々な活動を通じて削減努力が可能であり、経済活動の拡大と温暖化対策強化の両方を実現するポテンシャル

市場スキーム	取引量 (百万トンCO2)	取引総額 (百万米ドル)	取引量 (百万トンCO2)	取引総額 (百万米ドル)
CDM (プライマリ市場)	537	5,805	551	7,426
CDM (セカンダリ市場)	25	445	240	5,451
JI	16	141	41	499
ボランタリー市場	33	146	42	265

カーボン・オフセットの課題

【基本的な条件の整備】

- ✕ 市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等に対し、広くカーボン・オフセットの取組に関する認識の向上、取組の促進
- ✕ カーボン・オフセットの取組に関する情報の幅広い共有と関連市場の育成
- ✕ カーボン・オフセットの取組に対する信頼性の構築

カーボン・オフセットの課題

- ▶ オフセットの対象活動に伴う排出量の算定（見える化）
- ▶ オフセットに用いられる削減・吸収量（クレジット）の確実性・永続性・正確性の確保
- ▶ オフセットに用いられるクレジットのダブルカウント防止
- ▶ オフセット・プロバイダーの活動の透明性の確保（消費者等への情報提供）
- ▶ オフセットに関する認定・ラベリング

カーボン・オフセットフォーラム（J-COF）について

カーボン・オフセットフォーラムの活動

2008年4月設立、

代表：末吉 竹二郎（国連環境計画・金融イニシアティブ特別顧問）

事務局：海外環境協力センター（OECC）

- × 低炭素社会の構築に向けたカーボン・オフセットに関する考え方の普及
- × 世界・日本におけるカーボン・オフセットに関する事例・情報の提供
- × 課題別ワークショップ、オープン・セミナー等の開催運営
- × カーボン・オフセットに関する相談支援サービス（ヘルプデスク）の提供

カーボン・オフセットフォーラム (J-COF) について

5月30日ウェブサイト本格版公開

カーボン・オフセットに関するイベントの掲示板

メールマガジンの発信



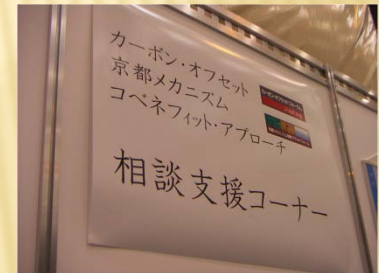
課題別ワークショップ等の
お知らせ

カーボン・オフセットに関する
基準・手引き等の
参考資料

URL www.j-cof.org

カーボン・オフセットフォーラム（J-COF）について オープン・セミナー等の開催

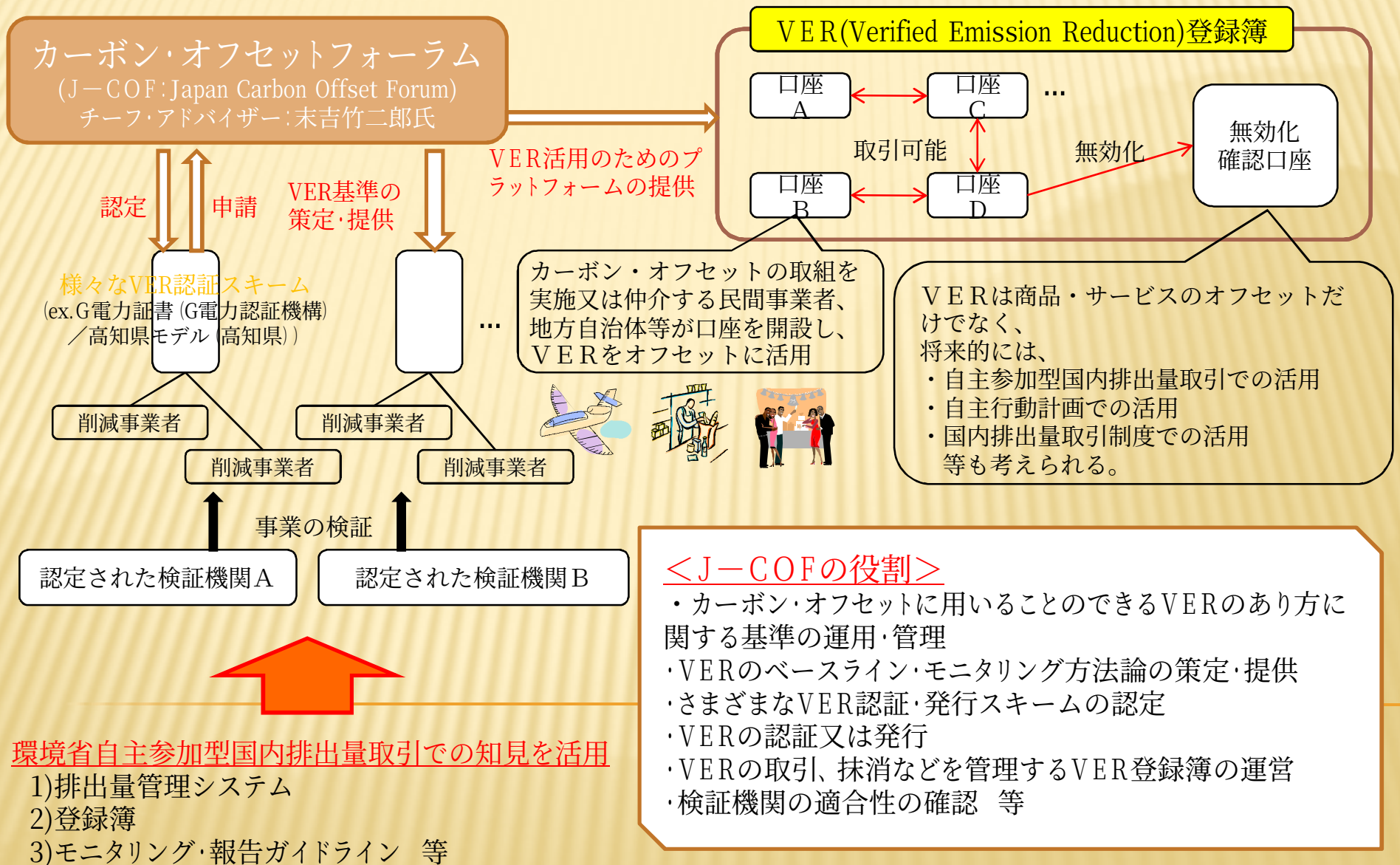
- 4月15・16日 J-COF キックオフ・ミーティング
- 4月19・20日 アースデイ東京に出展
- 5月23～26日 環境フェアin Kobe
神戸セミナー及び出前ヘルプデスク開催
- 5月30日 オープン・セミナー



カーボン・オフセットに関する今後の取組

- VER (自主的な認証クレジット) に関する検討会
 - グリーン電力証書のCO2価値評価、国内排出削減・吸収活動のCO2価値評価等
- 透明性の確保・第三者認定・ラベリングに関するワークショップ
- 排出量算定手法・バウンダリ設定手法等の提示
- 税務会計等に関する取り扱いの明確化
- モデル事業・試験的認定の実施、優良事例の表彰
- カーボン・オフセットに関するイギリスとの情報交換・研究協力の実施

VERの認証・発行スキームのイメージ



ご清聴ありがとうございました。